16年度に先導事業指針

13年度は22件試行

国交省

C I M導入促進

国土交通省は、建設事業に3次元モデル技術を用いるC I M(コンストラクション・インフォメーション・モデリング)で、16年度に先導的導入事業(仮称)を選定するためのガイドラインを策定する。26日に開いたC I M制度検討会で新たな方針を決定した。本年度は、12年度に詳細設計業務で実施した11件のモデル事業の中から6件を抽出し、実際の工事に取り入れる試行工事を実施。別途、モデル事業以外で施工者の提案による試行工事も16件で行い、計22件の成果を踏まえ、C I Mの本格導入に向けた段階的な取り組みを進めていく。

検討会では、これまで「エースに分けた導入計画」は、技術的に高度な維持
 試行期間(12～14年度)、「基礎的試行」「利管理でのC I M導入を目標
 試行拡大期間(13～15年)活用試行」「適用試行導指したプロジェクト選定
 度)、導入期間(14～16年)入」という形に改めた。を進めていく。
 年度」という3段階のうち、利活用試行で適用試行導入の段階で

策定する先導的導入事業 優先適正のあるプロジェ
 ガイドラインは、各地方 クトや、大規模で現場が
 整備局の担当者が導入の 複雑・ふくまざるよう
 可否を決める上での判断 高度な技術を必要とす
 材料としてもらうために る現場が対象になるとみ
 提供する。C I M導入に られる。

12年度に詳細設計業務
 で実施したモデル事業で
 は、ソフトウェアがまだ
 発展途上にあることか
 ら、既存の基準類と整合
 させていくなどの課題が
 提示された。3次元モデ
 ルを扱えるなど制度導入
 に見合った教育研修制度
 の創設なども必要になる
 としている。

13年度は22件の試行工
 事以外に20件程度の調査
 ・設計業務でも試行。詳
 細設計だけでなく、より
 上流段階の業務で導入効
 果を検証する。

CIM工事を初公告

八王子南B.P 寺田地区改良 C等級普及も探る

局受付 整備まで 東 27日 関

国土交通省関東地方整備局は20日、施工段階におけるCIM(コンストラクション・インフォメーション・モデリング)試行の初弾案件となる八王子南バイパス寺田地区改良(その3)工事の総合評価一般競争入札を公告する。2012年度に詳細設計で作成

したCIMモデルを活用し、工事段階における活用や効果について検証する考えだ。談合防止方式も試行するため、申請書は27日まで、入札書は12月2日から16日まで電子入札で受け付ける。その後、予定価格を作成した上で開札す

の施工実績を求める。

概要は、暫定二車線の供用開始に向けた八王子南バイパス大船寺田地区における調整池、車道、歩道舗装工事など。

概算数量は、長さ約3000m、道路土工(掘削)約1500立方m、舗装工(車道舗装)約2000平方m、調整池の鉄筋約20t、コンクリート約250立方mなど。

工期は14年6月30日まで。工事場所は東京都八王子市大船町と同寺田町。

CIMの試行では、建設生産プロセス(調査・維持管理)の各段階で、コンピュータ上に作成した3次元形状情報を活用する。材料や部材に付与するコスト情報など構造物の属性情報モデル(CIMモデル)を一元的に共有・発展させ、各業務の効率化、高度化を目指す。

同工事は、設計を中央復建コンサルタンツが担当し、詳細設計でCIMモデルを作成。そのモデルを活用し、実際に施工段階で試行する分野については、落札した施工者の希望なども聞きながら決定する。CIMの導入を進めている大手ゼネコンではなく、C等級企業で試行するため、地域の建設業にいかに関及できるかを探る狙いもある。

参加資格は、一般土木C等級で、東京都内に本支店、営業所があることなど。同種工事では、現場打ち鉄筋コンクリートのカルバート工事が擁壁工事(開削トンネルを含む)